

大項目	番号	中項目	評価の視点 (1:不適切 2:やや不適切 3:ほぼ適切 4:適切)	評価点	分析・対策
Ⅰ 学校運営	1	学校の教育理念・目的を定め、それを実現するための組織目標を策定しているか。	①組織目標は、教育理念・目標を踏まえて策定し、法人目標との整合性がある	3	・法人との目標のずれがないように意識されている。また、前年度評価を活かし、策定している。 ・昭和大学としての中・長期目標は提示されているが、当校の中・長期目標の策定について不足部分があるため、策定が必要である。
			②組織目標は、学校の特徴や前年度評価を生かして策定している		
			③中・長期の組織目標も策定している		
			④組織目標を職員が理解している		
	2	コンプライアンスを重視した学校運営がなされているか。	①法令や倫理を遵守し、適切な学校運営がなされている	3	・個人情報の保護の対策を講じ実施し、個人情報保護については配慮されている。 ・人権に関しては、人権委員も選出されており、必要時相談可能な体制がある。 ・急な方針転換、急な仕事量の増加などは人権に配慮が不足した点である。
			②個人情報の保護について十分な対策を講じている		
			③外部委員を含めて学校運営評価を実施し、結果を公表している		
			④学生や職員等の人権に十分配慮している		
	3	組織全体でチーム力を発揮した取組を行っているか。	①運営組織や意思決定の仕組みが明確化され、有効に機能している	2	・運営組織や意思決定の仕組みは明確化され、組織内でタイムリーに情報共有で共有できている。 ・しかし、複数の新規プロジェクトが同時進行し、意思決定のしくみをうまく活用できなかった部分があり、評価が低下している。複数の新規プロジェクトは今後も継続するため、事前の意見の吸い上げや議事録の活用などの改善策を取り入れていく。
			②組織の課題を職員が共有し、解決に向けて協力して対応する仕組みがある		
			③組織内でタイムリーな情報共有を図っている		
			④担当間の連携・調整、コミュニケーションを円滑に行っている		
Ⅱ 教育課程・教育活動	4	ディプロマポリシーを明示するとともに、卒業時の到達状況を分析しているか	①看護師として身に付けておくべき資質を、知識・技術・態度の側面から明文化されている。	3	・学生に新学期にガイダンスなどで説明し、学生便覧に明示されている。 ・到達度は年度末に評価し、教員間で共有している。 ・今後は、達成度が低い項目についての対策が必要である。
			②ディプロマポリシーを学生に説明する機会を設けている		
			③ディプロマポリシーの到達状況を教員間で確認する機会がある		
			④ディプロマポリシーに照らし、卒業時の到達度を評価している		
	5	教育内容は教育理念・教育目標との一貫性があり、時代の要請に応える内容になっているか	①教員全員で教育課程を検討する場を設けている	3	・授業評価や試験結果を用いて評価を行い、教育課程に反映させている。 ・独自の取り組みとして、臨床教員制度の導入に向けての視点でも、教育過程の整理を行っている。 ・ただし、領域など個々の検討になりやすいため、教員全員で検討する機会を増やす必要がある。
			②時代の要請に応じて、必要時に修正している		
			③学校の独自性が盛り込まれている		
			④教育課程の評価を行い結果を次年度に反映させている		
	6	体系的なカリキュラム運営が行われているか	①授業計画(シラバス)を作成し、公表している	3	・シラバス作成し、公表できている。 ・授業評価アンケートは全ての科目で実施し、次年度へ活かしている。
			②効果的な授業運営を図るため、適切に時間割を調整している		
			③授業評価アンケートを実施し、講義・実習指導等の改善に役立てている		
			④授業内容や指導方法が学生レベルに合うよう工夫・改善している		
	7	評価について公平性・妥当性が保たれているか	①評価基準を公表している	3	・シラバスで評価方法・評価基準を公表している。 ・領域で試験後に評価の妥当性を検討している。 ・実習評価では自己評価も反映させ納得性を高めているが筆記試験についてはそのような取り組みが弱い。次年度から行う筆記試験へのフィードバックは納得性の強化につながると考える。
			②評価方法及び評価結果を学生に説明・明示している		
			③評価の妥当性について検討する場がある		
			④学生の納得性を高める努力をしている		
	8	実習時の安全体制が整っているか。	①医療安全教育を体系的に実施している	4	・医療安全教育は科目として設定し、体系的に実施できている。 ・実習では、インシデント報告を実施し、事例として検討する機会を設けている。 ・感染対策は法人の保健管理センターと連携し、徹底して実施している。
			②実習における感染予防対策、職業感染予防対策を実施している		
			③実習施設と協議し、安全な実習環境の整備に努めている		
			④実習を振り返りながら安全意識の向上を図っている		

大項目	番号	中項目	評価の視点 (1:不適切 2:やや不適切 3:ほぼ適切 4:適切)	評価点	分析・対策
Ⅲ 学習成果	9	学生に単位取得にむけた支援を実施しているか	①学生の単位取得上、困難となる要因を分析している	3	・学習支援が必要な学生には、必要時、面談や支援を行い、個別に対応している。 ・単位取得上、困難となる要因について、領域や個別では分析しているが組織としての分析が弱い点がある。次年度は、教育推進委員会が発足し中心となり進めていく予定である。
			②学生が再試験・再実習となった理由を自己分析するように指導している		
			③学生の自己分析結果に基づき対応策を学生と検討し、指導している		
			④成績不振者を対象として学習支援や学習会等を実施している		
	10	国試の合格率が100%となるよう、教職員一丸となって取り組んでいるか	①1年次から3年間を通して計画的に国家試験対策に取り組んでいる	4	・1年次から3年間を通して、学年ごとの目標を定め、計画的に対策に取り組んでいる。 ・国験は2年連続100%の合格率であり、それ以外も常に全国平均を上回っている。
			②国試の合格率が全国平均を上回っている		
			③国試の合格率が100%である		
			⑥学校独自の工夫をしている		
	11	退学率の低減を図っているか	①再試験・再実習を持つ学生への継続的な支援を行っている。	3	・クラス担任制を設け、年3回の定期的な面談を行っている。 ・再試験者・再実習者を把握し、必要な支援を行っている。 ・退学率は全体で2.9%であったが、1年生では4.4%と高くなっているため、原因を分析し対策が必要である。
			②定期的個別面談で状況を把握し適宜相談に応じている		
			③退学者の状況を把握・分析している		
			④退学者は全学生の3%以下である		
Ⅳ 入学・卒業対策／就職・進路支援	12	入学応募者確保に努めているか	①各高等学校等に出向き学校案内を行っている	4	・学生募集委員会を中心に、本校でのオープンキャンパス以外にも高校訪問や企業主催の合同説明会に参加している ・また、オンラインも並行して活用している。 ・ホームページで就職や国家試験合、進学状況を公表している。
			②就職や国家試験合、進学状況を公表している		
			③学校説明会以外に個別の学校見学等に対応している		
			④学校説明会では、独自の工夫がある		
	13	就職・進路指導に取り組んでいるか。	①就職・進学支援について、計画的に取り組んでいる	3	・キャリア支援室があり、1年次から3年間を通して計画的に対策に取り組んでいる。個別での就職・進学相談にも対応している。 ・キャリア支援室と教員との月1回の会議を設け、連携を図っている。 ・個々の教員では、支援内容の把握が不足の場合があるので、情報共有などを強化していく。
			②就職・進学支援について、教員とキャリア支援間で連携した支援を行っている		
			③就職希望者の就職率を高めるように努めている		
			④学生の特性を生かすように、個別の支援を行っている		
	14	卒業生への支援を行っているか	①卒業生への就業継続への支援事業を行っている	3	・卒業生への支援事業・就業相談についてはキャリアセンターにそのような仕組みが整っている。 ・卒業生の図書館の利用は可能になっている。
			②卒業生も図書室を利用することが可能である		
			③既卒者、中途退職者に対し就職相談にのるシステムがある		
Ⅴ 学生生活への支援	15	健康管理面、経済面、精神的面からの学業継続支援体制が整っているか。	①奨学金、授業料減免など、経済的支援について情報を提供し相談に応じている	4	・新入生のガイダンスで、奨学金やカウンセラーの存在・役割を周知している。 ・健康診断の結果フォローは、保健管理センターと連携し行っている。
			②カウンセラーの存在、役割を学生に周知している		
			③健康診断後の指導・相談体制がある。		
			④個々の学生の状況に応じた支援を行っている		
	16	学生の自主的な活動を支援しているか	①いぶき祭の活動を支援する体制がある	3	・大学の学生課と連携し、看護専門学校の学生も参加可能な部活・サークルを学生に提示している。 ・いぶき祭(学園祭)の活動は学生主体であるが、必要時教員がサポートを行っている。
			②サークル活動など自主的な活動の場を設けることを支援している		
	17	学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。	①学生の意見や要望を聞く場を設け意見箱を設置している	4	・クラスの代表学生と校長、副校長、学年主任、事務長などが参加する懇親会を年2回実施しており、学生の意見から必要なものには改善策を講じている。 ・意見箱も設置している。
			②意見要望への回答を必要に応じて公開している		
			③意見や要望に基づいた改善を行っている		

大項目	番号	中項目	評価の視点 (1:不適切 2:やや不適切 3:ほぼ適切 4:適切)	評価点	分析・対策
VI 財政、施設設備の管理	18	予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・進行管理を行っているか	①年間計画に基づき計画的に予算・事業執行を行っている	3	・物品管理委員会と事務課が連携をし、年間計画を出し予算計画・事業執行が行われている。 ・計画的に行っているが、経費削減への効果が低いため更に対策を講じる必要がある。
			②計画的に設備備品の充実などを行っている		
			③組織的に経費の節減対策を行っている		
	19	災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。	①総合防災訓練等を年1回実施している	3	・病院と合同の防災訓練に参加した。また、寮生への防災訓練は実施した。 ・平常時に行っている消防署・警察署の協力を得て実施する対策はできていない。次年度は計画的に行っていく。 ・備品は、簡易トイレの準備が整っていないため、早急にそろえていく。
			②防犯・交通安全対策を行っている		
			③危機管理マニュアルを作成し、随時見直している		
			④学生用の災害時の食糧・飲料水、簡易トイレや寝具を備蓄している		
	20	施設・設備及び教材が整い、安心、安全が確保されているか	①耐震基準をクリアしている	3	・施設・設備・教材は指定規則に則っている。 ・施設は計画的な点検・整備を行っている。 ・教材・備品に関しては、点検は行っているが、コロナ禍で教室の使用が減り、視聴覚機器において使用できないものがある。早急に点検・修理が行えるよう、次年度の計画に組み入れていく。
			②指定規則に則った施設・設備・教材がある		
			③教材・設備等の安全性を確保するための工夫・改善を行っている		
			④教材・設備等の安心・安全のための、定期的な点検・整備を行っている。		
	21	学生のための福利厚生施設・設備は整っているか	①学生のための福利厚生施設・設備がある	3	・図書室は充実し、活用されている。 ・技術練習は、試験前には実習室を利用できるよう整えた。 ・コロナ感染も終息に向かってるので、次年度は試験前以外でも利用できる環境を整えていく。
			②図書室は利用しやすく学生に十分活用されている		
			③学生が自主的に看護技術練習をするための場と教材が整っている		
VII 教職員の能力向上	22	教員は、看護教育力向上に努めているか	①看護教育力向上のために研鑽の取組を行っている(学会参加など)	3	・授業参観・公開授業は毎年行っている。 ・各自学会に参加するなど看護教育力向上に努めている。 ・臨床を5年以上離れた教員は、研修を実施している。 ・教員の質の向上として、教員ラダーを取り入れている。
			②授業参観・授業公開により能力向上を図っている		
			③臨床看護研修や研究活動に計画的に取り組んでいる		
	23	教員の能力向上に対する取組を支援する環境があるか。	①学校の抱えている課題を踏まえた研修を行っている	3	・二水会(他校との交流会)で定期的に意見交換を行っており、学校を超えて情報交換や相談ができるため、視野が広がる体制がある。 ・要望を踏まえた研修や学会参加の還元機会が不足していた。次年度は、報告会などの時間を作っていく必要がある。
			②二水会(他校との交流会)を通して、情報共有できるしくみがある		
			③教員の要望を踏まえた研修をおこなっている		
			④学会、研修等に参加した成果を他の教員に還元している		
VIII 広報・地域活動	24	学校をPRするために積極的な広報活動をしているか。	①前年度の評価を踏まえた広報計画を年度初頭に策定している	3	・学生募集委員会で作成しているパンフレットなど受験生にとって年々見やすく改善されている。学校説明会の参加者増員のために、オンラインの活用や、イベントの工夫をしている。 ・ホームページは更新しているが、不定期であり回数が少なくなっている。事務課との共同作業であり、連携を強化していく。
			②ホームページを年6回程度更新している		
			③学校説明会参加者を増やすための工夫を図っている		
			④学校独自の広報活動に努めている		
	25	地域社会の一員として、貢献しているか	①地域のボランティア活動への参加を促している	2	・いぶき祭などで3年ぶりに地域との交流ができた。ボランティア活動はできていない。 ・例年行っていた近隣小学校への授業協力の機会がなくなったため、次年度は、同じような活動の場を開拓していく必要がある。
			②学校独自の地域社会活動に努めている		

2022年度 自己点検・自己評価 結果

評価の視点：1-不適切 2-やや不適切 3-ほぼ適切 4-適切



※1 評価項目	2022年度 評価	2021年度 評価
I 学校運営	2.8	3.2
II 教育課程・活動	3.3	3.3
III 学習成果	3.4	※2 3.3
IV 入学・卒業対策／ 就職・進路支援	3.4	3.4
V 学生生活への支援	3.4	3.3
VI 財政、施設設備の管理	3.3	3.0
VII 教職員の能力向上	3.1	3.0
VIII 広報・地域活動	2.7	2.4
平 均	3.2	3.0

※1：2021年度から評価項目を一部改訂した。

※2：2021年度は、Ⅲ学習成果に相当する大項目がないため、評価内容の近い中項目 13. 18. 19. の平均値を評価として掲載している。

総括：

1. 昨年比で半数以上の項目で向上があり、コロナの影響で落ち込んだ平均スコアが、改善傾向にある。
部活・サークルやいぶき祭など、コロナ以前の状況に復活したものに加え、電子シラバスの導入や評価方法の明記、校長を交えた懇親会の実施など、新規事項への取り組みの成果と考える。
2. 「Ⅰ学校運営」の評価の低下がみられる。主な要因として、教育課程に関する複数の新規事項導入準備が同時進行したことによる、意思決定の仕組みの活用が不足した結果と考える。次年度は、既存の仕組みを有効活用できるよう個々の教員がよりチームを意識し行動できるように進めていきたい。